

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	クリーンハウス株式会社たんぽぽ新館	評価実施年月日	2009/5/1～2009/5/31
評価実施構成員氏名	小木 順子 溝渕 美樹 本間 君枝 宮田 幹子 安倍 さおり 正木 里加 中嶋 政信 坂東 道子		
記録者氏名	小木 順子	記録年月日	2009/6/1

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>介護理念は全職員で考え作られています。実践に向けて具体的な指針も作成し、実践されています。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>職員の採用時には必ず理念を理解してもらえるようにしている。またミーティングや職員会議の場では利用者の支援について話し合う時に理念に付いて触れています。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p> <p>運営推進会議や町内会、毎月家族へのお手紙などで理解をして頂けるように、取り組んでいます。家族来訪時にはホームでの様子をお話しさせて頂いています。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>施設行事では地域の子供たちに参加していただいたり、近隣の住人にも参加していただけるよう声をかけています。散歩など外で人にあつた時は挨拶をするようにしています。</p>	○	<p>行事の時は近所や地域に声を掛けていますが、チラシなどを配布し大勢に参加して頂けるようにしたほうが良い。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>地域の行事や盆踊りなどに出来る限り参加している。</p>		
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>隣接している「華苑みかさ」と連携し、ホームでできる事があれば協力しています。</p>	○	<p>今後「華苑みかさ」だけではなく、町内会などを基盤に、ご近所の高齢者との交流から役に立てる事を模索し、取り組んで行きたいと思えます。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>職員会議でサービス評価の意義や目的を全職員に伝え、外部評価の結果を踏まえて会議で検討し、改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議ではGHの取り組みなどを報告し、さまざまな助言を受けサービス向上に活かしています。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>運営推進会議メンバーとは日常的に交流があり、華道を教えてくれる方もおり、頻繁に来訪されております。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>施設内研修として、毎月研修を行っています。その中で制度的な学習もされています。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待防止の為の講習会に参加した職員のレポートを回覧し、会議や朝礼などで話しあっています。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入所時や入所申し込み時に、重要事項説明と家族からの質問や不安な事、支援の方向などを話し合っています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者からの苦情や不満は日常的な会話の中から、職員が聞き出し会議や話し合いの場で議題になります。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月GHから家族へ「たんぼぼ通信」を配布しており、そこで情報を公開しています。また個別に利用者の健康状態や日常生活状況などをお知らせしています。金銭管理は毎月の請求書と共に送付しております。家族はつきに1回は来訪していただき、その時に様子などをお話しています。急な変化などあった場合は、電話にて連絡しています。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族からの苦情は常に受け付けており、苦情受付ポストの設置や公共機関への苦情受付窓口のポスターなどを貼っています。苦情や意見があった場合には速やかにミーティングなどで話し合い、ケアに反映させて居ます。家族からの要望などは、連絡用ノートに記録し、全スタッフが周知できるように努めている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の会議やミーティング、日常的な会話で職員の意見を聞く事が出来ます。	○	自発的に発言をしにくい職員も居る為に、個別に話を聞くようにしている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	日勤帯は4人で勤務しており、状況に応じ勤務時間を変えるなどの対応をしています。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	事業所内で職員を移動する時は、利用者情報を含め引継ぎを十分行い、利用者混乱を与えないよう最善をつくしています。	○	日頃からユニット間で職員と利用者の交流をし、職員の異動時に利用者や馴染みの関係を築いていければ良いと思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>職員は段階に応じて受けられる研修会に参加しています。施設内での研修は毎月行われており、さまざまな内容で研修が行われています。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>GH協議会に参加していて、その中で情報交換などが行われネットワークを作っています。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>利用者と離れ一息入れる時間を作るようにしている。職員同士の人間関係を把握するよう努めている。ホーム全体では年に一度親睦会を開催しており、個々でも何かの折には交流会を開催し気分転換を図っているが、職場単位での交流会は時間がなく開けていない為、気分転換ができずにストレスが溜まる職員も居る。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>運営者が現場で実務に就くこともあり、職員の業務や悩みを把握している。職能評価を行っており、向上心を持って努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>事前面談で利用者の状況を把握するように努め、不安を理解するように工夫しています。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>サービス申し込み時に家族が求めている事を理解し、対応を話し合っています。また今までの経緯を聞いています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時は本人と家族が求めている事を確認して改善に向けた支援の提案をしています。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所前に見学に来られる入居者もいますが、入院などの事情もあり、何度も来られる方はいません。	○	入所前の見学や交流などが出来るように、入所予定の家族と話し合いをしていきたいと思えます。空き部屋がある場合は体験入所などして頂くことも良いと思えます。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者は人生の先輩であるという認識を職員がもっており、普段から利用者に教えていただく場面を多く持ち、常に感謝の気持ちをもって関わっています。特技や趣味などを取り入れ支援しています。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員と家族は利用者についての情報やアイデア、気づきを共有しており、家族と一緒に利用者の支援をしているという気持ちがある。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族や利用者の状況を見て外出や外泊を勧めたり、来訪時に家族と一緒に居られる時間を大事に出来るようにテーブルや椅子などを用意し、お茶や食事などを一緒にしていけるように、支援しています。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	利用者が馴染んだ場所にはドライブなどで行く事があり、友人は施設に訪ねてきてくれます。また馴染みのお店などに行くようにしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係性について情報連携し、全ての職員が共有できるようにしている。また利用者同士の関係が上手くいくように職員が調整役となって支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所された利用者と家族との関わりは少なくなり、やがて無くなります。	○	行事に招待したり、遊びに来ていただくなど継続的な付き合いが出来るようにしたいと思います。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は日々の関わりの中で声を掛け把握に努めて居ます。また言葉や表情から真意を汲み取り把握するよう努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族からの聞き取りや、ライフヒストリーとアセスメントで利用者の生活環境を把握するようにしています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者の生活サイクルを考慮し、出来る事は本人にして頂けるように支援しています。	○	出来ないことは支援し、出来ることは見守りながらして頂く声かけが必要
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者や家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。サービス計画作成は職員と意見交換を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	○	<p>担当者を交えたケース会議を開き意見を聞きながら評価をし、問題点を出して新しいケアプランを立てて、職員会議で全員の意見を聞いているが、意見を言いにくい職員もいるので、発言しやすい雰囲気を作ることも必要。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診に行くことが出来なくなった利用者には、往診をしてくれる医院に協力して頂き、連携をとっています。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力病院の精神科の医師と相談しながら、診断や治療をして頂いています。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	職員に看護師がいるので日常的な健康管理や医療の相談をすることが出来ます。4月より訪問看護ステーションが入っています。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院中は看護師から情報を聞き、早期退院出来るよう相談しています。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期に向けて家族と話し合い、家族の意向を聞きました。医師と家族との話し合いも行われ、終末期に向けての方針を決めています。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期に向けて家族と話し合い、家族の意向を聞きました。医師と家族との話し合いも行われ、終末期に向けての方針を決めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他施設への転居がある場合は、今までの支援の内容や身体状況、受診状況、個人状況などを伝えています。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者に話しかける時は親しい関係を築きながらも、尊厳を持って話しかけるよう心がけています。記録などは見えないように裏返して置くことを徹底しています。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員は利用者を選択して頂けるように提案し、利用者一人一人が自分で決める事が出来る場面を持つようにしています。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>職員との話し合いの場で、利用者本位のケアをする事を常に話しておりますが、無理にして頂いていることもある様に思います。もう少し急がずゆっくり見守るようにしたいと思います。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理容は本人行きつけの店がある場合は、店まで行っています。行事ごとに女性は化粧をし、外出着を来ています。通院時も知人などに会う機会が多いので、おしゃれをしていくように職員が気を配っています。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事の準備や片付けは利用者で行っています。片付けは主に利用者が主体になって頂いていますが、洗い方が悪いと利用者同士がもめる事もあります。</p>	○	職員と一緒に片付けをし、もめない様に注意しています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	医師からの指示がない限り、本人の望む物を提供しています。誕生会の席などではお酒などを提供しています。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄間隔を記録してあるので、時間をみてトイレ誘導を行っています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は希望すればいつでも入れる事になっていますが、日中に入る利用者がほとんどです。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の活動を促し生活リズムを整えるよう支援しています。利用者の状況を考慮し無理をしないようにしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	意分野で出来る事は利用者をお願いしてやっています。	○	もっと一人一人にあった楽しみを増やしていきたいと思います。今後カラオケやパークゴルフのサークル活動を楽しんでいただけるように支援したいと思います。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	3名の利用者は自分で小額でもお金をもっており、外出時には自分で買い物をする事ができます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は車でドライブや散歩などを積極的に取り入れています。日常的に買い物に利用者と一緒に行くようにしています。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	季節ごとの景観を楽しむために、ドライブやピクニックなどに出かけています。連休などには家族と温泉旅行に行く利用者もいます。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	毎年利用者から年賀状を家族に出すようにしています、利用者からも一筆書いて頂けるように、声掛け支援をしています。本州など遠くから入居者さんへ送り物があつた時は、利用者さんからお礼の電話をするよう支援しています。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族が訪問された時は、明るくスタッフが挨拶しています。食事時は入居者さんと一緒にご飯を食べて頂くなどしています。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての講習に参加した職員からの講習レポートを職員に回覧し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	家族の要望により転倒・転落防止のためにベットの柵をしている利用者もいますが、家族に同意書を頂いております。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間は防犯の意味合いで施錠していますが、日中は施錠していません。	○	朝の時間帯に職員が他利用者を介助している間に、利用者さんが1人で外出したので、日勤が来る9時までは施錠しています。今後玄関にセンサーを設置したいとおもいます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は常に利用者の居場所を確認しながら、さりげない見守りを行っています。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	洗剤を飲もうとした利用者がいたので、手の届かない場所に保管しています。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故や危ない場面があった場合は、事故報告書とヒヤリハット記録で職員に通達し、今度の予防対策について検討しています。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急マニュアルは整備され、消防署の協力を得て応急手当や蘇生術の研修を受けている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	施設内で避難訓練を行っており、災害時の避難に備えています。避難先に近隣の施設を想定するなど協力をお願いしています。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	抑圧感のない暮らしが利用者の表情を明るくする事を、家族に見てもらっており、理解が得られている。身体状況を配慮した対応策を家族と話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日の血圧測定検温などで、体調の変化の発見に努めています。変化があった場合は、連絡ノートで職員が把握できるようにしています。緊急時は連絡網で職員への連絡はできます。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者ごとに投薬がファイルされていて、既往症や現症も記録されています。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	普段から食事の内容に気を付けており、繊維質の多い食材や牛乳などを取り入れています。また日頃から家事を手伝っていただく等で体を動かす機会を取り入れてます。自然排便が困難な入居者さんには、下剤を本人に合わせ、排便状態を確認しながら職員間で相談し、調整しています。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後口腔ケアをするようにしています。定期的に往診してくれる歯科医院があり、口腔状態の確認をして頂いています。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日に何度か記録の確認をし、一日の摂取量の確保をしています。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種、ノロウイルス対策の為に2回/日の消毒、外出から帰った時の手洗いうがいの施行などを行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理道具は日常的に消毒しており、食材は毎日買い物に行き新鮮な物を提供するようになっています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	施設前には小さな公園を作り、誰でも休める環境を作っています。また花などを植え落ち着いた雰囲気を作って居ます。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	台所を中心に居室があるので、食事の準備など生活観を感じられると思います。ホーム内にはいつも花が飾られており、季節感を感じられるようにしています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関横に休める小スペースがあり、大きな窓から外の景色が見れます。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に家族に説明し、馴染みの使い慣れた物を持ち込んでいただくようにしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各居室、談話室、浴室に温度計湿度計を設置し、加湿器を用意して湿度調整をしています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>施設内の廊下には手摺が設置されており、歩行困難な利用者でも手摺につかまりながら歩行されています。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>利用者の出来る事と出来ないことを把握し、体調や気分を鑑みながら自分で出来る事はやって頂いています、</p>		
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関前にベンチとテーブルを設置し、気軽に外に出て休めるように配慮し、声掛けをしています。</p>		

V. サービスの成果に関する項目				
項目		取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	①	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	①	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	①	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	②	

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	②
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	②
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	②
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	①

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

- ☆日頃から利用者本位のケアが出来るよう、職員は心がけて居ます。
- ☆天気の良い日には突発的にでもピクニックや観光など、柔軟に活動しています。